

## 令和5年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	59	学校名	静岡県立横須賀高等学校	記載者	柴 博昭
------	----	-----	-------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	<b>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的にICT活用する職員90%以上</li> <li>・自ら進んで授業に取り組む生徒80%以上</li> <li>・1単元で1回はALを実践</li> </ul>	<b>A</b>	<b>A</b>	<p>公開授業日に参観した全授業で教員がICTを活用しており感心した。</p> <p>ICTの活用機会が増えることで、視覚的理解や検索能力も上がり、生徒の主体的な学びが向上してきていると思われる。今後はICTの有効活用が課題となると思われる。</p> <p>3年生の授業満足度が素晴らしい。ICT活用等により興味関心を抱く授業展開ができたのではないかな。</p>
	義務教育段階での学習内容の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書、プリント、校内表示等の工夫を行った職員90%以上</li> <li>・年度当初に立てた朝学習の目標を達成した生徒80%以上</li> <li>・週の家庭学習時間7h以上</li> </ul>	<b>B</b>	<b>B</b>	<p>各先生方が生徒の学習意欲を喚起しようと創意工夫して授業に臨んでいる様子がうかがえた。</p> <p>授業改善だけでなく、各種検定・職業体験等による刺激も必要ではないかな。</p> <p>家庭学習に関しては、学校が与えた課題ではなく、授業で学んだ事や疑問に思ったこと等を、生徒が主体的に調べ、次時の授業につなげるなどの工夫が必要であると考ええる。</p>
	中上位層の学力伸張	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学説明会や補習等により、指導の効果を実感する生徒80%</li> <li>・家工商等の検定合格者数の平均が60%以上</li> </ul>	<b>A</b>	<b>A</b>	<p>様々な検定に挑戦する機会があることは、生徒の学習意欲の向上につながるるとともに、合格者数が増えることは生徒の自信にもつながるため、とても良い。</p>
イ	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席年間6回以上の生徒20%以下、遅刻年間6回以上の生徒8%以下</li> <li>・朝食摂取率90%以上</li> </ul>	<b>B</b>	<b>B</b>	<p>遅刻、朝食等は全体指導と共に個別指導を重視する。</p> <p>基本的な生活習慣の基盤は家庭教育にあるため、朝食摂取率を上げていくことは難しい面もある。睡眠時間（就寝時間と起床時間）の調査と現状の改善を図ることなども必要だと考える。</p> <p>基本的な生活習慣は家庭の指導と協力がなければ身につかない。先生方もご苦労されていると思う。</p>
	<b>高い規範意識の育成</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グッドマナー横高を常に意識した立ち居振る舞いをしている生徒90%以上</li> </ul>	<b>B</b>	<b>B</b>	<p>「グッドマナー横高」を意識して生活させることは、とても有意義であると考え、87%の現状でも〇と考える。10%マナーを守れていないのは残念だが、引続き積極的な指導を望む。</p>

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評価	意見
	情操の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1冊以上読書する生徒60%</li> <li>・他者を思いやる心が生徒の中に育っている</li> </ul>	B	B	若者の読書（活字）ばなれが、読解力の低下→語彙力の低下→学力の低下→コミュニケーション能力の低下につながっているため改善を図りたい点である。
ウ	校内安全 (学校保健、学校 体育、生徒指導)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの持ち帰り100%</li> <li>・歯科眼科受診率向上</li> <li>・新体力テスト点数向上した生徒60% (前後期比較)</li> <li>・重大ないじめ件数0件</li> <li>・校内感染の発生0件</li> </ul>	B	B	<p>ゴミの持ち帰り98%は大変素晴らしい成果であると考えます。</p> <p>いじめや校内感染に関しては、0に越したことはないが、クライシスマネジメントも大切なため、今後に活かせる対応ができたのであれば〇と考える。引続き未然防止活動、再発防止に取り組んでいただきたい。</p> <p>いじめの被害者にとことん寄り添うのも大切だが、加害者側にも細かなヒアリングと指導をお願いする。</p>
	交通安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通マナー苦情の減少</li> <li>・重大な交通事故0件</li> </ul>	B	A	重大な事故がなく過ごせているならば〇と考える。交通マナーに関する苦情対応指導を通して、交通事故が防げていると思われる。地元の者としても自治体と共にマナーが悪い生徒には直接指導したいと思います。
	防災安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災訓練参加70%以上</li> </ul>	なし		参加率100%を目指し活動して欲しい。
	命を大切に する 教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連講座の満足度80%</li> <li>・生徒に対する適切な言葉遣いを意識した職員100%</li> </ul>	A	A	<p>交通事故遺族の講話は効果的だったように思われる。</p> <p>一人一人の生徒を大切にした教育活動の推進は、何よりも重要であるため、生徒に対する適切な言葉かけを意識した教員100%は素晴らしい結果である。</p> <p>授業もそうだが、部活動時にも適切な言葉遣いを意識してほしい。</p>
	危機管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の不祥事0件</li> <li>・校内での事故件数の減少</li> <li>・一斉安全点検年3回</li> </ul>	A	A	不祥事がなく安心安全な学校は、教育界だけでなく、全保護者の切なる願いでもあるため、不祥事0、校内事故0は素晴らしい成果であると考えます。不祥事根絶研修を引続き行ってもらい、コンプライアンス違反ゼロを継続してもらいたい。
エ	希望する進路 の自己実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年終了時までに進路希望「未定」0人</li> <li>・将来の仕事や生き方を真剣に考えている生徒80%以上</li> </ul>	A	A	<p>地元で働く卒業生の講話やアドバイスを身近に聞く機会を多くしたらどうか。</p> <p>将来の生き方を真剣に考えることで生徒の日々の学校生活への意識も変わってくるため、81%の生徒の意識の高さは、先生方の指導のたまものであると考えます。</p>
	多様な生徒の支 援及び特別支援 教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の知識やスキルを支援に活用した職員80%以上</li> <li>・個別の指導計画作成率向上</li> </ul>	A	A	多様性が求められる現代社会において、89%の職員が特別支援教育の知識やスキルを支援に活用できていることはとても素晴らしいことであると考えます。

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評価	意見
		・SST 講座による自尊感情向上			外部講師を取り入れた取り組みは非常に素晴らしい。
オ	地域に根ざした学校	・異年齢と交流した生徒 100% ・日常的な情報発信 ・一部活動一ボランティアの実施部活 100%	A	A	職員の地域研修、企業研修を行ったかどうか。 横須賀高校の地域に根差した教育活動は、県内の他の公立高校も学ぶべき点が多いと感じる。中学校とも防災教育で連携していただきとても有り難い。 一部活動一ボランティアの継続は素晴らしい。将来の地域貢献につながる。
	<b>地域との連携・協働</b>	・地域との協働または SDGs 推進に取り組んだ職員 80% ・将来は地元で地域貢献したいと考える生徒 80%以上 ・グローバル・ハイスクール共同研究の完成と成果発表	A	A	横須賀高校の郷土芸能部等の地域との連携・協働した教育活動は、県内だけでなく県外にも発信できる素晴らしい活動である。今後はコロナ禍以前に行ってきた活動が、スムーズに再開されていくことを望む。 SDGs 推進はテーマが大きく、ビジョンが見えにくい、セミナーの参加や資格を取得したスペシャリストが1名欲しい。就業体験を充実化（単位化）することで、将来的に地元に残り、地域貢献したいと考える生徒の増加も期待できるのではないかと。
カ	部活動と学校行事の一層の活性化	・部活動に積極的に参加している生徒 80%以上 ・学校行事に積極的に参加している生徒 80%以上 ・部活動数の削減計画立案実施	A	A	部活動に積極的に参加している生徒 83% は素晴らしい成果であると考えている。今後は、無理のない範囲で中学生への部活動指導等も行っていたらとありがたい。 部員の減少もあるが人数が少ないなりの活動方法、取組み方を検討し、今後のビジョンを考えたい。 部活動、学校行事の活性化は学校全体の活性化につながる。ただ、部活動削減によって先生方の負担を軽くすることも必要。
キ	新学習指導要領等への対応	・観点別評価の研究・改善に取り組んでいる教科 100% ・家工商を中心とした連携実施	A	A	横高ならではの教育・科目の構築が課題。全ての教科で観点別表の研究・改善に取り組まれていることはとても素晴らしい。今後は指導と評価の一体化を図っていくことが課題であると考えている。 インスタグラムを使用し、モチベーションアップにも繋げていきたい。
	働き方改革に対する組織的取組	・やめる、へらす、かえる実践 ・執務の効率化	A	A	働き方改革は、教育界の最重要課題。組織的な改革以上に、教職員の意識改革が重要であると考えている。 情報共有をしっかりと行い、問題点の見える化をし、DXを活用し効率化を図り、少しでも負担低減していただきたい。